

平成 24 年 3 月 15 日

【照会先】

健康局 結核感染症課

課長 正林 督章 (内線 2370)

課長補佐 林 修一郎 (内線 2373)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

報道関係者 各位

## 平成 23 年度秋 急性灰白髄炎（ポリオ）予防接種率の調査結果まとめ（速報）

厚生労働省ではこのほど、市町村が実施する急性灰白髄炎（ポリオ）の予防接種について、平成 23 年度秋シーズン（9 月～12 月）の実施状況（速報値）を取りまとめましたので、公表します。

ポリオの予防接種者数については、厚生労働省が都道府県を通じて調査していますが、春と秋に集中して実施する市町村が多いことから、今回はこれらの市町村について集計しました。接種を通年実施している市町村などについては、昨年 12 月までに平成 23 年度分が完了していなかったことから、集計の対象とはしていません。

### 【平成 23 年度秋シーズン（9 月～12 月）のポリオワクチンの接種率】

○対象者 82.5 万人中、接種者 62.4 万人＝接種率 75.6%

（平成 23 年度春シーズンの接種率 83.5%から 7.9 ポイント減）

※調査に回答した 1,742 市町村中、春・秋のシーズンに集中して実施した 1,282 市町村を集計

※※現在、予防接種法に基づく予防接種は生ポリオワクチンで実施

まもなく、春のポリオワクチン接種シーズンが始まります。厚生労働省では、国内でのポリオの流行を防ぐため、昨年 10 月に作成したリーフレットなど広報ツール類を改定し、都道府県、市町村を通じて、ポリオワクチン接種の必要性について情報提供を行っていく方針です。

また、今年秋の接種シーズンには不活化ポリオワクチンが導入できるよう、引き続き、関係者と協力しながら取り組んでいくと共に、ウェブサイトなどを通じて接種時期を迎える乳幼児の保護者のみなさんに向け、わかりやすい情報提供を行っていきます。

□ポリオワクチンに関するウェブサイト：<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/>

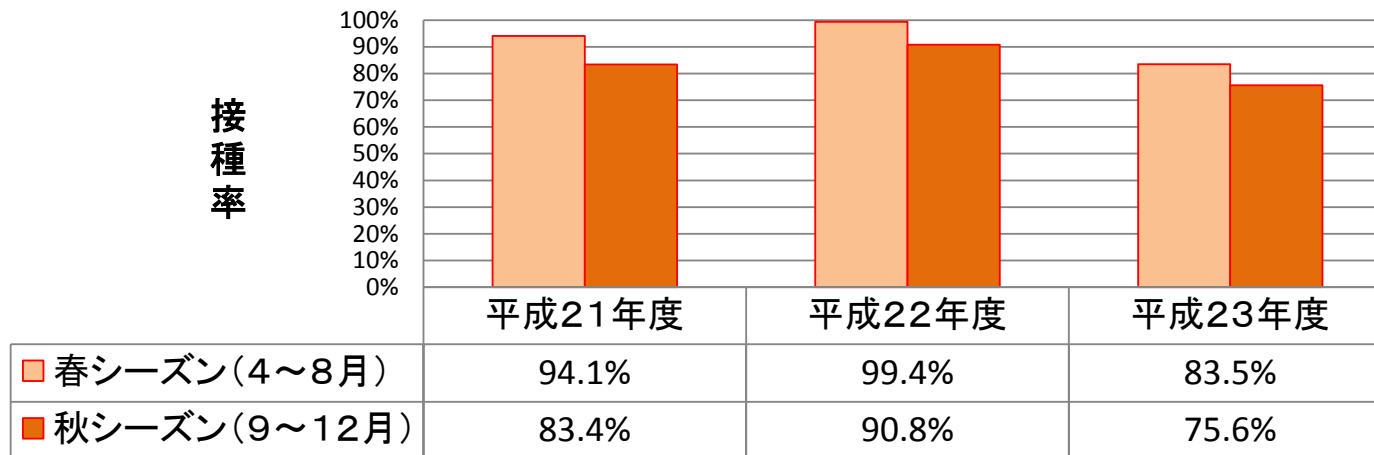
別添資料 1 ポリオ生ワクチン予防接種の接種率の推移

資料 2 リーフレット

資料 3 ポリオワクチンに関する Q & A

## ポリオ生ワクチン予防接種の接種率の推移

(春・秋シーズンのみに接種を行う市町村における接種率の全国平均:平成21～23年度)



※平成23年度に春・秋シーズンのみに接種を行った市町村について、集計対象期間(春:4～8月、秋:9～12月)の接種者数を集計した。(有効回答市区町村数:1,282)

なお、通年で接種を実施する等の市町村については、平成23年度の接種が12月までに完了していないことから、本集計の対象としていない。

※対象者数は、各年度の10月1日時点の各市町村の人口を基準として、 $\langle (0\text{歳の}9/12 + 1\text{歳の}6/12) \times 12/15 \rangle$ として算定。

※本集計対象市町村の対象者数、接種者数は、以下のとおり

(単位:万人)

	春シーズン(4～8月)		秋シーズン(9～12月)	
	対象者数	接種者数	対象者数	接種者数
平成21年度	84.1	79.1	84.1	70.2
平成22年度	83.2	82.7	83.2	75.6
平成23年度	82.5	69.0	82.5	62.4

# ポリオの予防には、 ポリオワクチンの接種が必要です。

不活化ポリオワクチンの導入は、  
2012(平成24)年の秋を目指しています。

- ◆不活化ポリオワクチンは、昨年末から順次、国内導入のための申請（薬事承認申請）が行われ、現在、薬事審査や供給の準備などが進められています。
- ◆不活化ポリオワクチンを可能な限り迅速に導入できるよう取り組んでおり、2012（平成24）年の秋の導入を目指しています。

不活化ポリオワクチンの導入まで、  
ポリオワクチンの接種を待つことは、おすすりできません。

- ◆ポリオの流行のない社会を保つためには、ワクチンの接種が必要です。
- ◆不活化ポリオワクチンを導入するまで、ポリオワクチンを接種せずに様子を見る人が増えると、免疫をもたない人が増え、国内でポリオの流行が起ってしまう危険性があります。

ポリオワクチンを接種することが、  
ポリオを予防する唯一の方法です。

- ◆日本では、2000年にポリオの根絶を報告しましたが、世界には、今でも流行している地域があり、渡航者などを介して感染はどの国にも広がる可能性があります。
  - パキスタン、アフガニスタンなどの南西アジア、ナイジェリアなどのアフリカ諸国では、今でも流行がみられます。
  - いったんポリオが根絶された中国やタジキスタンなどでも、最近流行が起こったことが報告されています。
- ◆このため、ポリオの根絶に向けて、世界中でワクチンの接種が行われています。
  - きちんとワクチンを接種し、ほとんどの人が免疫をもてば、海外でポリオが流行しても、国内での流行を防ぐことができます。

# ポリオの予防には、ポリオワクチンの接種が必要です。

## できるだけ早く、 不活化ポリオワクチンへ切り替えられるよう 取り組んでいます。

- ◆生ポリオワクチンには、ごくまれにですが、接種の後、手足などに麻痺（まひ）を起こす場合があることが知られています。
  - 「生ワクチン」はウイルスの病原性を弱めてつくったワクチン、「不活化ワクチン」はウイルスを不活化して（＝殺して）つくったワクチンです。
  - 麻痺を起こした事例は、最近では
    - ・生ワクチンを接種した人では、10年間で15例（100万人の接種当たり約1.4人に相当）
    - ・周囲の人では、5年間で1例（いわゆる「2次感染」）が認定されています。
- ◆複数の企業によって不活化ポリオワクチンの開発が進められています。実際に人に接種して安全性や有効性を確認する「治験（ちけん）」が行われ、一部の企業のワクチンは、既に治験を終えて承認申請が行われました。承認申請があったワクチンについては、薬事審査や供給の準備などが進められています。
  - ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオの4種を混合したワクチン（DPT-IPV）と不活化ポリオ単独のワクチンの導入に向けた準備が進んでいます。
- ◆厚生労働省では、不活化ポリオワクチンを国内に導入する際には、できるだけ速やかに定期接種として広く実施できるよう、生ワクチンからの移行の方法などの検討を始めています。

## 生ポリオワクチンの接種を受けた後は、 手洗いなどに気をつけましょう。

- ◆生ポリオワクチンを接種してから1か月程度は、ウイルスが便の中に出ています。
  - 特に初回接種の後1～2週間目に、便中のウイルス量が最大になるという報告もあります。
- ◆この期間、おむつ交換の後などには十分に手を洗うなどして、便中のウイルスが他の人の口に入らないように気をつけ、感染の危険性を少しでも小さくしましょう。
- ◆また、生ポリオワクチンの2次感染を防ぐには、地域内のすべての乳児が一斉に接種を受けるのが、最も安全性の高い方法です。お住まいの市町村がご案内する時期に接種を受けることをおすすめします。

ポリオワクチンに関する情報は、厚生労働省ホームページでご案内しています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/index.html>

## ポリオワクチンに関する Q &amp; A

平成 24 年3月15日版

問1. ポリオってどんな病気ですか？

問2. 生ポリオワクチンと不活化ワクチンはどう違うのですか？

問3. 生ポリオワクチンによる麻痺はどのくらい発生しているのですか？

問4. ポリオワクチンを接種していないと、ワクチンを接種した子から感染してポリオになることがあると聞きました。どうすればよいのでしょうか。

問5. 日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

問6. 不活化ポリオワクチンに切り替わるのはいつ頃ですか？

問7. 不活化ワクチンに切り替わるまでの間、接種しないで待っていたほうがよいのですか？

問8. 平成 24 年の春に生ポリオワクチンの接種を1回受ける予定ですが、次の接種はどうなりますか？

問1. ポリオってどんな病気ですか？

・ポリオは、人から人へ感染します。

ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることの多い病気です。

・ポリオウイルスに感染すると、手や足に麻痺があらわれることがあります。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあられずに、知らない間に免疫ができます。

しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、残念ながら、現在のところ、特効薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。

## 問2. 生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンはどう違うのですか？

・生ポリオワクチンには、病原性を弱めたウイルスが入っています。

「生ワクチン」は、ポリオウイルスの病原性を弱めてつくったものです。ポリオにかかったときとほぼ同様の仕組みで強い免疫ができます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出る場合があります(問3参照)。その他、麻しん(はしか)、風しん(三日ばしか)のワクチン、結核のBCGが生ワクチンです。

・不活化ワクチンは、不活化した(殺した)ウイルスからつくられています。

「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し(=殺し)、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くしてつくったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません(ただし、発熱など、不活化ワクチンにも副反応はあります)。その他、百日せき、日本脳炎のワクチンが不活化ワクチンです。

## 問3. 生ポリオワクチンによる麻痺はどのくらい発生しているのですか？

・ポリオの予防接種を受けた人の中には、ポリオにかかった時と同じような麻痺を生じることがあります。

現在、日本国内で(公費での)予防接種に使っているワクチンは生ポリオワクチンです。入っているウイルスは病原性を弱めているとはいえ生きていますから、ウイルスが変化するなど何らかの要因で、ポリオにかかった時と同じように、手や足に麻痺があらわれることがまれにあります。

・ポリオの予防接種を受けた人の中で、ポリオによる麻痺の可能性があると認定されたのは、10年間で15人(100万人への接種当たり約1.4人)です。

ポリオの予防接種を受けた人の中で、予防接種健康被害救済制度に申請し、ポリオによる麻痺と認定された人数は、2001(平成13)年度～2010(平成22)年度の10年間で、15人です。日本では、1年に概ね110万人がポリオの予防接種を受けていることから、100万人の接種当たり約1.4人に相当します。

## 問4. ポリオワクチンを接種していないと、ワクチンを接種した子から感染してポリオになることがあると聞きました。どうすればよいのでしょうか。

・極めてまれですが、生ワクチンの接種を受けた人の周囲の人が、ポリオになることがあります。

予防接種を受けた人と接触した人の中にも、ポリオと同じ様な麻痺などの症状があらわれることがあります。これは、生ポリオワクチンに含まれるウイルスが予防接種を受けた人の便の中に出て、周囲の人に感染したことによるものです。このような2次感染は、2006(平成 18)年度～2010(平成 22)年度の間に日本全国で1人の報告がありました。ポリオの予防接種を受けていないご家族など、ポリオウイルスに対する免疫を持っていない人は、ウイルスに感染する可能性が高く、麻痺の症状が現れる可能性がより高いと考えられます。

・生ワクチンの予防接種を受けて1カ月程度は、ウイルスが感染しないよう乳児の便の処理などに細心の注意を払いましょう。

予防接種を受けてから1カ月程度はウイルスが便の中に出ています。特に初回接種の後1～2週間目に、便中のウイルス量は最大になるという報告もあります。この期間、おむつ交換の後などには十分に手を洗うなどして、便中のウイルスが他の人の口に入らないように気をつけ、感染の危険を少しでも小さくすることをおすすめします。

また、生ポリオワクチンからの2次感染を防ぐには、地域内の全ての乳児が一斉に接種を受けるのが、最も安全性の高い方法です。お住まいの市町村がご案内する時期に接種を受けることをおすすめします。

## 問5. 日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

・予防接種によってポリオの大流行を防ぐことができました。

日本では、1960(昭和 35)年に、ポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりましたが、生ポリオワクチンの導入により、流行はおさまりました。1980(昭和 55)年の1例を最後に、現在まで、野生の(ワクチンによらない)ポリオウイルスによる新たな患者はありません。

・今でも、海外から、ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。

海外では依然としてポリオが流行している地域があります。パキスタンやアフガニスタンなどの南西アジア、ナイジェリアなどのアフリカ諸国です。また、これらの国の患者からの感染により、タジキスタン、中国など他の国でも発生したという報告があります。

ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気がつかないまま帰国(あるいは入国)してしまう可能性があります。症状がなくても、感染した人の便にはポリオウイルスが排泄され、感染のもととなる可能性があります。

・ポリオに対する免疫をもつ人の割合が減ると、流行する危険があります。

仮に、ポリオウイルスが日本国内に持ち込まれても、現在では、ほとんどの人が免疫を持っているので、大きな流行になることはないと考えられます。シンガポール、オーストラリアなど、予防接種率が高い国々では、ポリオの流行地からポリオ患者が入国しても、国内でのウイルスの広がりがなかったことが報告されています。しかし、予防接種を受けない人が増え、免疫をもつ人の割合が減ると、持ち込まれたポリオウイルスは免疫のない人から人へと感染し、ポリオの流行が起こる可能性が増加します。

## 問6. 不活化ポリオワクチンに切り替わるのはいつ頃ですか？

・不活化ポリオワクチンの導入は、2012(平成24)年の秋を目指しています。

複数の企業によって不活化ポリオワクチンの開発が進められています。実際に人に接種して安全性や有効性を確認する「治験(ちけん)」が行われ、一部の企業では、既に治験を終えて承認申請が行われました。現在、薬事審査や供給の準備などが進められています。不活化ポリオワクチンを可能な限り迅速に導入できるよう取り組んでおり、2012(平成24)年の秋の導入を目指しています。ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオワクチン(DPT-IPV)と単独の不活化ポリオワクチンの導入に向けた準備が進められています。

・厚生労働省では、不活化ポリオワクチンへ円滑に移行するための準備にとりかかっています。

不活化ポリオワクチンが国内で導入された場合には、できるだけ速やかに、予防接種法に基づく定期接種として実施したいと考えています。生ワクチンから不活化ポリオワクチンに円滑に移行できるよう、厚生労働省では、昨年8月に「不活化ポリオワクチンへの円滑な移行に関する検討会」を設置し、移行の方法などの検討を始めています。

## 問7. 不活化ワクチンに切り替わるまでの間、接種しないで待っていたほうがよいのですか？

・今でも、海外からポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。

海外では依然としてポリオが流行している地域があります。パキスタンやアフガニスタンなどの南西アジア、ナイジェリアなどのアフリカ諸国です。また、これらの国の患者からの感染により、タジキスタン、中国など他の国でも発生したという報告があります。

ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染して



も感染したことに気がつかないまま帰国(あるいは入国)してしまう可能性があります。症状がなくても、感染した人の便にはポリオウイルスが排泄されて、感染のもととなる可能性があります。

・不活化ポリオワクチンの導入まで、ポリオワクチンの接種を待つことはおすすめできません。

不活化ポリオワクチンが導入されるまで、ポリオワクチンを接種せずに様子を見る人が増えると、免疫をもたない人が増え、国内でポリオの流行が起こってしまう可能性が増加します。ポリオ流行のない社会を保つためには、ワクチンの接種が必要です。

生ポリオワクチンの2次感染を防ぐには、地域内で全ての乳児が一斉に接種を受けるのが、最も安全性の高い方法です。お住まいの市町村がご案内する時期に接種を受けることをおすすめします。

**問8. 平成 24 年の春に生ポリオワクチンの接種を1回受ける予定ですが、次の接種はどうなりますか？**

・既に生ポリオワクチンを1回接種をした方の不活化ポリオワクチン導入後の接種については、研究結果を踏まえて検討する予定です。

海外では、不活化ポリオワクチンに切り替えたときに、既に生ポリオワクチンを1回接種した人に対して、途中から不活化ポリオワクチンに切り替えて接種を行った場合でも、免疫がつく効果が得られたとの報告があります。

国内でも、生ワクチンを1回接種した後に不活化ポリオワクチンを接種した場合に免疫がつくかどうかを調べるための臨床研究を進めています。その結果などを踏まえ、「不活化ポリオワクチンへの円滑な移行に関する検討会」で、生ポリオワクチンを1回接種した方が、不活化ポリオワクチンの導入後にどうすればよいか検討し、皆様にお知らせする予定です。